

平成22年度 第3回当別町地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：平成23年3月18日 15:00～16:00

場所：当別町白樺コミュニティセンター 2階大研修室

出席委員 17名、欠席委員 5名、オブザーバー 2名、傍聴人 0名、随行者 2名

1 開会（司会：増輪事務局長）

2 会長挨拶（近藤会長）

本会議に先立ち、本会の委員である石狩振興局地域政策課長が人事異動により田辺様が就任されたので、この後委嘱状を交付する。平成23年度から補助金に頼らない、自立した運行を行っていかねばならない。このため平成22年度の下期から自主運行を見越したダイヤ等で運行している。これから提案する平成23年度の事業計画及び予算案についても、今後自立した運行ができることを念頭において考えている。また、これまでの取り組み状況と予算執行状況をご報告させていただくので、よろしくご審議いただきたい。

3 委嘱状の交付（近藤副町長）

近藤副町長より委嘱状を交付

北海道石狩振興局地域政策部地域政策課長 田辺きよみ様

（事務局長）

空知総合振興局札幌建設管理部当別出張所長に対し冬場のコミュニティバス運行での施設内巡回にご協力いただいたことにお礼を申し上げる。

4 報告（事務局一括報告）

（1）バスまつり2010実施結果について（資料1）

当別町140年記念式典の前哨戦という形で実施し、昨年同様ふれあい倉庫・さわやか駅伝と連携して開催できた。

JR北海道バスや北海道中央バス、北海道運輸局の協力を得ながら実施できた。

参加者は去年の2倍以上と盛況に行われた。

（2）地域公共交通活性化・再生総合事業（計画事業）にかかる二次評価結果について（資料2）

補助事業を行うにあたって実施主体が自己評価をし、この評価内容を北海道運輸局の第3者委員会二次評価するものである。

概ね自己評価の通りとなっている。

（3）当別ふれあいバス平成23年2月までの実績について（資料3-1、3-2、3-3）

市街地循環線を昨年度と比較して減少している。とうべつ整形外科が参加事業者から抜けたのと1月の大雪によるダイヤの乱れによるものと考えられる。

西当別・あいの里線については、2月の落ち込みが気になるところで、分析をしていきたい。

みどり野・青山線は市街地循環線と同様の状況となっている。

全体の利用者数は、ほぼ昨年同様14万人を突破する見込み。

運賃収入については、ほぼ1千万は到達できる見込み。

(4) 平成22年度予算執行状況について(資料4)

収入支出ともにほぼ当初予算どおり執行している。

収入に参加事業者負担金については、約11%還付できる見込みである。

会議費の会場借上げ料について、無償の会議室を使うことで執行はない。

運行事業は12月1日から本格運行向けの運行体制を整え、運行便数を減便したこともあり契約変更して減額となった。

運行委託費については、精算性を持たせており、精算により差額が出た場合は繰越予算として来年度予算に積み立ていただく。

(5) ニュースレターの発行について(資料5)

第4号では本格運行に向けた運行を開始するお知らせとバス祭りの状況を載せている。

第5号では冬休み限定の応援券や西当別小学校でのMMについて載せている。

第6号では本格運行のお知らせ。

質疑なし

5 議事(事務局)

(1) 平成23年度事業計画・予算案について(資料6-1、6-2)

事業計画については、平成22年12月1日からの運行内容から変更はない。

バスマップ(時刻表)の作成や宣伝広告にかかる営業活動も行っていく

予算案について、広告収入は今まで委託費の中で間接的にお示ししていたが、本格運行に際し、直接経費としてお示しすることとした。

広報広聴費の委託料については、バスマップ(運行ダイヤ)の作成費として計上した。

平成23年度の運行体制も今まで同様の協議会で運行することで了解をいただいているので、その内容で予算を作成している。

質疑なし 承認

(2) 今後のスケジュール(資料7)

年3回程度開催する予定。

質疑なし 承認

6 その他(事務局)

- ・平成23年度利用促進事業について

国土交通省からの補助金がなくなるが、雇用対策の補助金を活用して、バスまつりやニュースレターの発行、調査業務を展開していきたい。

- ・広告のお願いについて(参考資料2)

バス車体・車内による宣伝広告費を集めていかなければならなく、事務局も下段モーターさ

んと一緒に動き、末田商店さんにご協力いただけることとなった。

ふれあいバスを支えるために、皆さんにもご協力をいただきたい。

・新たな補助制度について（参考資料3）

3月8日閣議決定をされているが、詳細な内容が決まっていない状況。

大まかな内容をみていると我々のバス事業には活用できなさそうである。

（北海道運輸局説明）

・元気な日本復活特別枠で地域公共交通に関する予算で453億円を要求し、305億円が決定した。

・詳細な要綱については、2月下旬に出来上がるとのことであったが、今日現在まだ未整備であるため確定した内容でお話しできないことをご理解いただきたい。

・地域内フィーダー路線については、当別町にも活用できるようなものと考えている。
具体的な要件を説明する。

（1）補助対象地域間幹線バス路線（複数町村で走行していて国と道が支援している路線）と接続するフィーダー路線とデマンド運行などは補助対象とする。

（2）過疎法による過疎指定を受けた町や交通不便地域として地方運輸局長が指定する地域などについては、補助対象地域間観戦バス路線のほか鉄道や黒字バス路線との接続も要件に含まれる。

・当別町として置き換えてみると、町内には国と道が補助をする補助対象地域間幹線バス路線がないので（1）では対象にならない。

・過疎地域にも指定されていないので、運輸局長が指定する地域として、みどり野青山線を指定することは可能かと考えられるが、要綱等が整理されてから本省とも調整しながら考えていきたい。

・次回の開催予定は6月で考えている具体的な日程が決まれば連絡する。

・広告について委員の皆様からもお声掛けと情報の提供をお願いしたい。

7 閉会（近藤会長）